

今回の衆院選について思う

最近、政治情勢が興味深いというか、気になっています。私は、政治・経済については無知な人間ですし、直接私の司祭職とは関わりありませんが、一個人として思っているところを、この場をお借りして吐露してみたいと思います。



先月の28日、安倍晋三首相が職権により衆議院を解散。結局、“仕事人内閣”という自画自賛的発言を検証することはできませんでした。今回の衆院選で安倍首相が訴えたいのが、“北朝鮮への対処と教育の無償化”だとか。この時期の解散の理由の一つに、「小池新党の選挙態勢が整わないうちに」という思惑もあったと報じられています。

森友・加計両学園問題でのごまかし対応、しかるべき手続きを踏まない強引な法案採決など、私もあきれていましたが、政権維持のために大義名分を欠いた衆院解散に打って出る……ここまで品性欠いていいのかな？

安倍政権にお灸をすえてやりたいのは山々なんです。でも小池新党“希望の党”も他の党についても気になることがあります。それは“消費増税反対”。安倍首相は、「増税分を（財政健全化推進と引き換

えに)教育無償化の財源に」と言い出した。借金返済よりも教育の無償化を優先することが、どれほど適切なことなのか、素人の私には判断しかねますが、大丈夫？

他党に至っては、この借金大国の未来をどう考えているのか、首をかしげざるを得ない。もちろん消費税に関しては一長一短があり、税制をどのようにするかについては議論の余地はあるものの、少なくとも何らかの形で増税は避けて通れないでしょう、現実を直視するならば。どの党も“聞こえのいい”政策しか訴えていないような気がして、候補者個人はともかく、政党名だけだったら、どこにも票を入れる気が起らない。



単なる第三者的な批判だけでは政治も世の中もよくなりません。それは私も良く分かっているつもりです。これから日本が、世界がどのように推移してゆくのか、よくわかりません。おそら

く厳しい現実が持ち構えていると思われませんが、こういう難しい時代だからこそ、右肩上がりの繁栄が終わった時代だからこそ、信仰の真価が発揮される時かもしれない、キリスト信者の活躍の時かもしれない……なんて勝手に思い込んでるんですが！

井手公平

